

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス・計測① (これまでの保健体育で学んだ内容を振り返り、現状とこれから学ぶ内容を確認する)
2	予防医学と健康 *課題(基礎体温計測)の説明 (健康に影響を及ぼす要因を知り、自分のヘルスプロモーションを考える)
3	生活習慣病と肥満 (主な生活習慣病と肥満のリスクを知る)
4	健康と運動 (運動不足病・ロコモティブシンドロームとは何か:運動の必要性を知る)
5	運動の実践とその方法・効果 (効果的な方法や注意点を踏まえて自分の運動プログラムを考えよう)
6	栄養と休養 (食生活と睡眠の現状と課題を確認し、積極的休養について知る)
7	心の健康 (ストレスチェックの方法を知り、自分のストレスマネジメントを考える)
8	グループワーク・計測② (煙草・飲酒・薬物および環境障害からテーマを選びグループワーク後に発表、中間計測により前半を振り返り今後の対策を考える)
9	出産と男女の違い (出産の実際について知り、生物学的・社会的な男女の違いを確認する)
10	性感染症の予防 (STDの種類と予防法、注意点を知る)
11	避妊と人工妊娠中絶 (排卵と月経について理解し、避妊の方法と人工妊娠中絶について考える)
12	女性特有の病気・症状 *乳癌の自己検診を実践 (若い女性にも注意が必要な子宮頸癌と乳癌について詳しく知り、予防法と検診について知る)
13	妊娠 (妊娠週数・妊娠月について知り、妊娠中の注意事項と妊婦健診について理解する)
14	少子化と不妊・計測③ (妊娠・出産の生物学的な適齢期を理解し、不妊の現状と今後について知る)
15	まとめ (今後の課題と実践について考える)

科目名	法学（日本国憲法）	授業コード	YK0216A0	科目コード	YK0216
担当教員	小堀 裕子・上岡 敦・西山 智之・外塚 果林				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

- ①将来、社会生活を送る上で知っておくべき法学および日本国憲法に関する基本的なレベルの教養を身につける。
 ②日本国憲法の構造を体系的に把握して、人権の意義や統治機構の役割を理解する。

2. 授業概要

法は普段なかなか目に見えないが、私たちの家族や職場などの日常生活に様々なかわりを持っている。身近な具体例や社会問題を通して、社会における法の果たす役割を理解してほしい。日本国憲法に関しては、国民主権の原理や統治機構、憲法9条と自衛隊、人権の意義を勉強する。また、児童や教育をめぐる法律上・憲法上のテーマにも触れたい。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

教科書やプリントを用いて、予習および復習、ノートの整理をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の70%）
 授業への参加姿勢および平常点＜小テストやレポート課題等＞（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『憲法学事始＜第2版＞』 野畑健太郎・東裕 編 （一学舎）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

すべての講義に出席することを前提とするため、無断欠席をしない。
 講義中の私語や携帯・スマートフォンの操作を禁止する。
 他学生への迷惑となる行為を行った者は、教室から退出してもらおう（欠席扱いとする）。

授業計画

【前期】	
1	ガイダンス（授業の進め方、採点方法などの説明）
2	法学① 社会における法・法と道徳
3	法学② 法の種類と日本の法体系
4	法学③ 法と裁判-日本の裁判制度と民事・刑事
5	国民主権・天皇制・戦争放棄
6	人権の歴史と意義-人権総論（人権の種類、主体、限界）
7	基本的人権① 幸福追求権・法の下での平等
8	基本的人権② 精神的自由
9	基本的人権③ 経済的自由
10	基本的人権④ 社会権・参政権・人身の自由
11	統治機構① 国会
12	統治機構② 内閣
13	統治機構③ 裁判所
14	財政・地方自治・憲法改正
15	全授業内容のまとめ・解説

科目名	ビジネス講座(秘書検定対策)	授業コード	YK026701	科目コード	YK0267
担当教員	稲又 可奈				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半期
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

- ・秘書検定の内容を使い、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。
- ・慶弔、交際業務などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”も学ぶ。
- ・「分かる」から「出来る」ようになることを最重点の到達目標とする。

「秘書検定2級」（試験は6月・11月・2月の3回）の受験対策も行います。
 希望者は準1級（筆記試験合格後に面接試験あり）に挑戦することもできます。
 この資格はビジネスマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会に出るための手助けとなります。

2. 授業概要

この講座のベースとなる秘書検定の内容は、ビジネスの場で求められる「あり方」を学ぶことからスタートし、職場における「こんなときどうする」のスタンダードを学ぶことができます。
 また、“秘書を目指す”ことだけにとられず、社会人として必要なマナーを実践的なロールプレイングにより習得していきます。
 実践では出来栄だけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視します。
 すぐに使える内容が中心で、コミュニケーション能力を高めるのに大変効果的なプログラムです。

検定対策では試験問題の演習を重点的に行い、最短距離での合格にアプローチしていきます。
 試験問題に向き合い、取り組むことでさらに深い学習効果を実感できます。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

プリント課題を毎回配布、回収します。検定試験前にはプリントの復習や実問題を繰り返し取り組むことが必要です。
 ビジネスマナーを「出来る」レベルに到達させるには日常の行動マネジメントも必要です。
 学んだ内容を行動できたかどうかをチェックするプリントも使用します。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・態度（平常点）：評価50%
 課題提出：評価20%
 学期末試験：評価30%（検定受験者はその結果も考慮する）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「秘書検定集中講義2級」（早稲田教育出版） ※授業開始日には必ず持参すること。
 「秘書検定2級実問題集」「秘書検定準1級実問題集」（いずれも2018年度版）※秘書検定受験希望者

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎します。

講座中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求めます。
 遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明します。
 履修希望者が多い場合は人数制限をする場合があります。
 初回講義は必ず出席すること。

授業計画	
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・職場におけるあなたのタイプを診断 ・秘書検定問題で現在のレベルをチェック
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ（必要とされる資質①） 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー～第一印象アップトレーニング～
3	必要な能力 求められる人柄と身だしなみ（必要とされる資質②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～一歩リードできる自己紹介～
4	組織における役割と仕事内容（職務知識） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話対応①基本～
5	社会人として身に付けたいコミュニケーション（マナー・接遇①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話対応②応用～
6	間違いやすい敬語・接遇用語（マナー・接遇②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しいおじぎの仕方～
7	来客接遇 受付・席次・湯茶の入れ方・見送り（マナー・接遇③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しい立ち居振る舞い～
8	お祝いやお悔みのマナー（マナー・接遇④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～好印象のあいさつとは～
9	贈答のマナー（マナー・接遇⑤） 実践すぐに使えるビジネスマナー～接遇用語を使う～
10	会議の知識（技能①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～名刺交換～
11	ビジネスメールやビジネス文書の名称・形式（技能②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～報告・説明をする～
12	ビジネス文書の取り扱い（技能③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～状況に応じた来客対応～
13	情報収集・資料管理（技能④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング①～
14	日程管理・オフィス管理（技能⑤） すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング②～
15	授業のまとめ・総復習

科目名	ウィンド・バンド1	授業コード	YE041000	科目コード	YE0410
担当教員	古田 賢司・石井 喜久子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

ウィンド・バンドとは、管楽器を主体に合奏をする吹奏楽（注）の講座（演習）である。
楽器を演奏あるいは合奏する事により音楽の楽しさに親しみ、
また演奏団体としての発表を通じて表現（パフォーマンス）し、楽しさを伝えられる事、また音楽する力の向上と合奏技術の学習を大きな目標とする。

（注）

具体的には木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット）
金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ）
打楽器によって構成される合奏形態である

2. 授業概要

授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。
主に ①合奏の為の基本練習、②セクション練習、③曲の合奏 を組み合わせて行なう。
また授業ではあるが合奏の団体として成立する事を目的に、運営にも学生が関わり進める。

2012年度、2016年度にはベルギーの作曲家、ベルト・アッペルモント氏、2015年度、2017年度はヤン・ヴァンデルロースト氏を
招いてFUYUONでの演奏会に出演した。
また2014度は8月にサントリーホールにおける学園90周年記念コンサートに出演。

本年度は8月にオープンキャンパスの体験授業、12月にFUYUONへの出演、1月にはYOUKONへの出演が予定されている。
年間を通して演奏だけでなく音楽の楽しさを表現し伝える事を目標にして活動する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内には個人の為の練習時間は基本的に設定していない。
各自で練習時間を作り技術向上に努め、授業での合奏に臨むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。
楽譜に関してはその都度こちらから配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。
また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウィンド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。

授業計画

【前期】	
1	ガイダンス
2	基礎合奏①
3	基礎合奏②
4	基礎合奏③
5	オープンキャンパスの練習①
6	オープンキャンパスの練習②
7	1年生だけの合奏①
8	1年生だけの合奏②
9	1年生だけの合奏③
10	オープンキャンパスの練習③
11	オープンキャンパスの練習④
12	オープンキャンパスの練習⑤
13	ワークショップの練習①
14	ワークショップの練習②
15	ワークショップの練習③

授業計画

【後期】

1 FUYUON の練習①

2 FUYUON の練習②

3 FUYUON の練習③

4 FUYUON の練習④

5 FUYUON の練習⑤

6 FUYUON の練習⑥

7 FUYUON の練習⑦

8 FUYUON の練習⑧

9 YOUKON の練習①

10 YOUKON の練習②

11 YOUKON の練習③

12 YOUKON の練習④

13 YOUKON の練習⑤

14 YOUKON の練習⑥

15 YOUKON の練習⑦

科目名	ウィンド・バンド2	授業コード	YE041100	科目コード	YE0411
担当教員	古田 賢司・石井 喜久子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

ウィンド・バンドとは、管楽器を主体に合奏をする吹奏楽（注）の講座（演習）である。
楽器を演奏あるいは合奏する事により音楽の楽しさに親しみ、
また演奏団体としての発表を通じて表現（パフォーマンス）し、楽しさを伝えられる事、また音楽する力の向上と合奏技術の学習を大きな目標とする。

（注）
具体的には木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット）
金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ）
打楽器によって構成される合奏形態である

2. 授業概要

授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。
主に ①合奏の為の基本練習、②セクション練習、③曲の合奏 を組み合わせて行なう。
また授業ではあるが合奏の団体として成立する事を目的に、運営にも学生が関わり進める。

2012年度、2016年度にはベルギーの作曲家、ベルト・アッペルモント氏、2015年度、2017年度はヤン・ヴァンデルロースト氏を
招いてFUYUONでの演奏会に出演した。
また2014度は8月にサントリーホールにおける学園90周年記念コンサートに出演。

本年度は8月にオープンキャンパスの体験授業、12月にFUYUONへの出演、1月にはYOUKONへの出演が予定されている。
年間を通して演奏だけでなく音楽の楽しさを表現し伝える事を目標にして活動する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内には個人の為の練習時間は基本的に設定していない。
各自で練習時間を作り技術向上に努め、授業での合奏に臨むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。
楽譜に関してはその都度こちらから配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。
また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウィンド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。

授業計画

【後期】	
1	J. S. バッハの楽曲(1) 時代背景、様式を中心に
2	J. S. バッハの楽曲(2) 形式、和声を中心に
3	J. S. バッハの楽曲(3) 奏法を中心に
4	J. S. バッハの楽曲(4) レジストレーション、表現法を中心に
5	J. S. バッハの楽曲(5) 表現の掘り下げ
6	J. S. バッハの楽曲(6) 仕上げとまとめ
7	課題曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に
8	課題曲を学ぶ(2) 形式、和声を中心に
9	課題曲を学ぶ(3) 奏法を中心に
10	課題曲を学ぶ(4) レジストレーション、表現法を中心に
11	課題曲を学ぶ(5) 表現法の掘り下げ
12	課題曲を学ぶ(6) 仕上げとまとめ
13	演奏会の準備、プログラミング
14	演奏会の総練習
15	演奏会とまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。